名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	運動学 Kinesiology	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	西出　圭吾　先生 冨山　直輝　先生
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜・3.4限、木曜・1.2限

【授業の学習内容】

第4章　四肢と体幹の運動

1機能解剖学-筋学を中心に　2上肢帯と上肢の運動

1）上肢帯と肩関節での上腕の運動　2）肘関節と前腕の運動　3）手関節と手の運動

3下肢帯と下肢の運動

1）下肢帯と股関節の運動　2）膝関節の運動　3）足関節と足の運動

第8章歩行と走行

1歩行と運動学　2歩行周期

※実務者経験：2008年に理学療法士免許取得し、整形外科病院にて整形疾患、中枢疾患の患者様を中心に徒手療法を行ってきた。

※実務者経験：1996年に作業療法士免許をを取得し、2008年博士課程終了。鹿教湯病院に勤務後、現在は星城大学にて勤務。

【到達目標】

上肢における関節運動学の理解

・上肢の各関節の構造を述べることができる。・上肢の各関節運動および筋・制限因子について述べることができる。

・関節包内運動について述べることができる。

下肢・体幹・顔面における関節運動学の理解

・下肢・体幹の各関節の構造を述べることができる。・下肢・体幹の各関節運動および筋・制限因子について述べることができる。

・関節包内運動について述べることができる。・顎関節、表情筋の機能について述べることができる。

歩行運動の理解

・歩行の各階層について述べることができる・歩行時の関節角度・筋活動について述べることができる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを実施することができる。
2回目	関節の構造と機能について説明することができる。
3回目	肩甲帯の機能解剖について説明することができる。
4回目	肩甲上腕関節の機能解剖について説明することができる。
5回目	肘関節・前腕の機能解剖について説明することができる。
6回目	手関節・手指の機能解剖について説明することができる。
7回目	股関節の機能解剖について説明することができる。
8回目	膝関節の機能解剖について説明することができる。
9回目	足関節の機能解剖について説明することができる。
10回目	頸椎の機能解剖について説明することができる。
11回目	胸椎・胸郭の機能解剖・呼吸運動について説明することができる。
12回目	腰椎の機能解剖について説明することができる。
13回目	顎関節・顔面筋の機能解剖について説明することができる。
14回目	姿勢について説明することができる。
15回目	歩行運動について説明することができる。
16回目	試験

準備学習時間外学習	事前学習として四肢および脊柱についての解剖学的知識の復習が必要です。各関節運動を理解するために、主動作筋・補助動筋について起始・作用・神経支配及び作用について復習するように。また、都度小テストを実施します。講義ごとに復習しておくようにしてください。		
評価方法	定期試験（100%）	評価方法はGPA制度となります	人体の関節の構造・筋の働きについて学びます。また基本動作の分析を学びます。
受講生へのメッセージ	運動学は作業療法を行う上で核となる科目の一つです。解剖学・生理学とともにきちんと身につけ作業療法評価・治療に結び付けられるように予習・復習していきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

基礎運動学　第6版　補訂　医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	運動学 実習（Practical Kinegiology）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 嘉晃
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	45（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】
実習が中心の授業。運動学の知識の確認をするために、実験と結果の解釈を中心とした実習です。運動学で学んだ知識を実際の身体にあてはめて確認します。

※実務者経験
佐藤：1990年～1997年　尾張温泉リハビリかにえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院付属リハビリテーション学院　作業療法科で「臨床運動学」を担当。

【到達目標】
運動学で学んだ関節運動などの知識を深めるために、人で実際の運動を観察、計測する。
計測した結果と知識と結びつけ、個人の運動における特徴を理解し解釈できる知識と技術を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを実施することができる。
2回目	実習機器・計測機材の確認をし、利用方法を理解することができる。
3回目	実習機器・計測機材の確認をし、利用方法を理解することができる。
4回目	運動学習について説明することができる。
5回目	運動学でいう「よい姿勢」について説明することができる。
6回目	静的な姿勢と動的な姿勢を観察しその特徴を列挙することができる。
7回目	静的な姿勢と動的な姿勢を観察しその特徴を列挙することができる。
8回目	異常歩行について説明することができる。
9回目	上肢運動について測定方法を考案し適応することができる。
10回目	上肢運動について計測結果をまとめ対比することができる。
11回目	前腕・手指について)測定方法を考案し適応することができる。
12回目	前腕・手指について計測結果をまとめ対比することができる。
13回目	下肢について測定方法を考案し適応することができる。
14回目	下肢について計測結果をまとめ対比することができる。
15回目	歩行について測定方法を考案し適応することができる。
16回目	歩行について計測結果をまとめ対比することができる。
17回目	動筋・拮抗筋について測定方法を考案し適応することができる。
18回目	動筋・拮抗筋について計測結果をまとめ対比することができる。
19回目	代謝について説明するができる
20回目	呼吸・循環について測定方法を考案し適応することができる。
21回目	呼吸・循環について計測結果をまとめ対比することができる。
22回目	姿勢・重心について測定方法を考案し適応することができる。
23回目	姿勢・重心について計測結果をまとめ対比することができる。

準備学習時間外学習	事前課題および事後課題があります。事前課題では、運動学の知識について予復習が必要です。 事後課題では、実習形式の授業で習得した知識・技術、および計測したデータをレポートでまとめる必要があります。		
評価方法	レポート（100%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	基礎運動学、運動学で学んだ知識を、実習により確認していきます。
受講生へのメッセージ	事前に準備するものがあります。授業の前日には必要なものを確認して持参してください。 グループで行いますので、協力して進めていきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】
基礎運動学　第6版　補訂　医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	内科学（Internal Medicine）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	齋藤　研
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜 ・ 3限

【授業の学習内容】

・内科学は医学・医療の基本である。近年、高齢社会により、一人の患者が複数の疾患を有する特徴がある。リハビリテーション専門職として作業療法の実践やリスク管理上必要な知識を習得する。内科学の思考過程を理解すると共にリハビリテーション学との関連性について習得する。
※実務者経験：1984年中学校・高等学校教員免許取得。1995年医師免許取得し内科医として勤務する。

【到達目標】

1. 内科学に基本的な症候学，診断学及び治療学を説明することができる。
2. 主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。
3. リハビリテーション学との関連性について説明することができる。
4. 疾病の予防，発症，治癒に関する知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを実施する。
2回目	循環器について理解し説明することができる。
3回目	呼吸器・循環器について理解し説明することができる。
4回目	呼吸器・循環器について理解し説明することができる。
5回目	腎・電解質について理解し説明することができる。
6回目	腎・電解質について理解し説明することができる。
7回目	消化器について理解し説明することができる。
8回目	消化器について理解し説明することができる。
9回目	内分泌・代謝について理解し説明することができる。
10回目	内分泌・代謝について理解できる。
11回目	アレルギー疾患・免疫について理解し説明することができる。
12回目	アレルギー疾患・免疫について理解し説明することができる。
13回目	消化器について理解し説明することができる。
14回目	消化器について理解し説明することができる。
15回目	総復習し試験準備をすることができる。
16回目	試験
準備学習時間外学習	講義資料を持ちいて復習してください。多くの医療用語があります。分からない読みなどそのままにせず、解決して次に進んでください。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

標準理学療法・作業療法　内科学　第4版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	整形外科学Ⅱ（ Orthopedics SurgeryⅡ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	渡 賢治
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				(2)	曜日・時限	木曜 ・ 4限

【授業の学習内容】
整形外科学Ⅱでは、整形外科疾患各論　整形外科外傷学　スポーツと整形外科について　病態、症状、診断、治療、予後の概要をリハビリテーションを含め講義する。
※実務者経験：日本整形外科学会専門医。日本整形外科学会リウマチ認定医。日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医

【到達目標】
運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。
運動器疾患の病態像の習得から、なぜこのような治療をおこなうのかの深い理解となる。この理解の上で理学療法
作業療法を施行される理由が十分に会得される。

授業計画・内容	
1回目	整形外科学について説明することができる。
2回目	上肢骨折について説明することができる。
3回目	下肢骨折について説明することができる。
4回目	脱臼について説明することができる。
5回目	脊椎損傷　脊髄損傷について説明することができる。
6回目	末梢神経損傷について説明することができる。
7回目	変性疾患について説明することができる。
8回目	変性疾患について説明することができる。
9回目	脊椎疾患について説明することができる。
10回目	脊椎疾患について説明することができる。
11回目	肩疾患について説明することができる。
12回目	スポーツ整形について説明することができる。
13回目	スポーツ整形について説明することができる。
14回目	スポーツ整形について説明することができる。
15回目	総復習し試験準備をすることができる。
16回目	試験
準備学習時間外学習	内容が多いので事前に配布する資料は、授業前に目を通しておいてください。

評価方法			
	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	整形外科的疾患の病態・診断・治療について学びます。

受講生へのメッセージ	
	整形外科とは、運動器官を構成するすべての組織、つまり骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの疾病・外傷を対象とし、その病態の解明と治療法の開発および診療を行う専門領域です。 その対象は脊椎（脊柱）・脊髄、骨盤、上肢（肩、肘、手、手指）、下肢（股、膝、足、足指）など広範囲に及びます。新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象になり、その内容は多様で治療の必要な患者数が極めて多いのが整形外科の特徴です。

【使用教科書・教材・参考書】
病気がみえる〈vol.11〉運動器・整形外科　MEDIC MEDIA

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	脳神経内科学Ⅱ（Neurology Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	後藤 桂
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

・神経疾患の臨床で重要なことは、病巣部位の診断と発症形式と問診から疾患を鑑別することである。病巣部位の診断には解剖学の知識が必要であり、神経系の病態を理解するためには神経生理学の知識が必要になる。この講義では、神経疾患の疾患概念、症状、症候と診察所見、臨床診断、検査所見、治療の概略、予後予測についての基本的知識を習得する。
※実務者経験：関西医療技術専門学校卒業後、箕面市立病院リハビリテーションセンターに勤務し、白鳳女子短期大学に着任し、現在星田南病院に勤務している。

【到達目標】

・作業療法の対象となる神経内科疾患、脳神経外科疾患を理解するために、その知識、治療に際しての態度を修得する。具体的には脳血管障害、認知症、脳腫瘍、外傷性脳損傷、脊髄損傷、変性疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患、筋疾患、感染性疾患、てんかんの定義、病態生理、症状、検査、治療、を説明できるようになる。また神経疾患に多い合併症の出る廃用症候群と誤用症候群の列挙および予防と治療について排尿障害の分類・検査と治療について、性機能障害とその検査・治療について説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	脳血管障害について理解し説明することができる（1）
2回目	脳血管障害について理解し説明することができる（2）
3回目	脳血管障害について理解し説明することができる（3）
4回目	脳腫瘍について理解し説明することができる。
5回目	中枢神経感染症について理解し説明することができる。
6回目	パーキンソン病について理解し説明することができる。
7回目	不随運動について理解し説明することができる。
8回目	認知症について理解し説明することができる。
9回目	脊髄小脳変性症について理解し説明することができる。
10回目	筋萎縮性側索硬化症について理解し説明することができる。
11回目	脊椎・脊髄の疾患について理解し説明することができる。
12回目	末梢神経疾患について理解し説明することができる。
13回目	ミオパチーについて理解し説明することができる。
14回目	自律神経疾患について理解し説明することができる。
15回目	総復習し試験準備をすることができる。
16回目	試験
準備学習時間外学習	新しい言葉が出てきます。1つ1つその日のうちに復習し、次回受講してください。解剖学・生理学の本も活用しながら復習することをお勧めします。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 神経内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経　MEDIC MEDIA

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	小児科学（Pediatrice）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	藤田　ひとみ
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	15（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜 ・ 1限

【授業の学習内容】
・健常児の発育，発達，生理，栄養，仕組み等を習得する
・小児の成長・発達を評価できる
・発達過程に起こり得る疾患とその特徴を把握する
※実務者経験：2002年理学療法士免許取得．急性期～維持期の理学療法に携わった後に老人保健施設及び訪問理学療法に従事する．現在，理学療法士養成校にて人間発達，小児科学，小児理学療法学の講義を担当．

【到達目標】
1.胎生期の成長から小児の成長発達について説明できるようになる。
2.小児特有の病態を理解し，疾患の徴候・症状を把握できるようになる。
3.小児の心と身体を理解した上で関わり方を考えることができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	小児科学概論
2回目	発育と発達
3回目	小児発達評価，検査
4回目	各論①（循環器疾患，代謝・内分泌疾患，腎・泌尿器疾患）
5回目	各論②（先天性疾患，アレルギー疾患，感染症）
6回目	各論③（神経・筋疾患）
7回目	各論④（発達障害）
8回目	総復習，試験準備
9回目	試験
準備学習時間外学習	毎時間講義のまとめと復習を行います．
評価方法	1．定期試験（100%） 2．小テスト（%） 3．レポート（%） 4．課題成果（%） 5．実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 小児疾患の病態・診断・治療について学びます。
受講生へのメッセージ	講義をよく聴き，専門用語の意味を理解した上で覚え，予習・復習を怠らないこと

【使用教科書・教材・参考書】
＜編集＞冨田豊
＜テキスト名＞標準理学療法学・作業療法学　小児科学
＜出版社＞医学書院

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	社会福祉論（ Study of Social Welfare ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	担当教員
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜 ・ 3限

【授業の学習内容】

・社会福祉とは、人々が抱える様々な生活問題（例えば、貧困や障害、虐待、DV、子育て、疾病、高齢など）に対する公的支援（社会制度と専門的実践）のことを指します。本講義では、家族機能の弱体化や社会的排除、少子高齢化、貧困・格差の拡大等、日本が抱える懸案問題を見つめつつ、社会福祉の理念と思想をはじめ、社会福祉の専門性や社会福祉の機能と役割、社会福祉の仕組み、社会福祉各分野の課題等について丁寧に説明し展開していきます。
※実務者経験：社会福祉士の資格を有する者

【到達目標】

①家族機能の弱体化、孤独・孤立、社会的排除、少子高齢化、貧困・格差の拡大等、日本が直面している懸案問題について説明できる。
②社会福祉の理念と思想、機能と役割について説明できる。
③さまざまな社会福祉制度の具体的な仕組みについて説明できる。
④社会福祉の専門性とソーシャルワークの内容や特徴について説明できる。
⑤それぞれの社会福祉分野が抱える課題について自分なりに論理的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	社会福祉の概念、理念、機能について説明ができる。
2回目	社会福祉の専門性について説明ができる。
3回目	「旧優生保護法」等からみた人権問題について説明できる。
4回目	障害者福祉制度について説明できる。
5回目	少子高齢化と家族機能の変化について説明できる。
6回目	児童・家庭福祉（子どもの権利条約、児童虐待、少子化対策等）について説明することができる。
7回目	高齢者福祉（介護保険制度、高齢者虐待防止法等）について説明できる。
8回目	家族の介護負担の実情（介護殺人を事例に）について説明できる。
9回目	貧困・格差の現状（非正規雇用の拡大、ワーキングプア、相対的貧困等）について説明できる。
10回目	貧困・低所得者（生活保護制度）について説明できる。
11回目	ひとり親世帯と子ども貧困の現状と課題について説明できる。
12回目	公的医療保険制度について説明ができる。
13回目	公的年金制度について説明ができる。
14回目	雇用保険制度、労働者災害補償保険法について説明できる。
15回目	総括および「小テスト」を行う。
16回目	
準備学習 時間外学習	・提示した参考図書を用いて、毎週該当する箇所を読んで授業に臨んでください。 ・講義後はレジュメと参考図書を用いて徹底的に復習してください。
評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（50%） 3. レポート（50%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 社会福祉に関連する制度・法律や動向などを学びます。
受講生への メッセージ	・社会福祉制度は我々に日常生活と密接な関係があります。ニュースで取り上げられる社会福祉の問題について関心を持って自分なりに問題点と改善策を考えてみてください。 ・私語、スマートフォン等の使用、その他授業を妨げる行為は禁止します。1回当たり5点の減点措置を取ります。

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書：なし
参考図書：

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	基礎作業学Ⅱ（ Basic OccupationologyⅡ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	磯貝 理栄
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	15（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1限

【授業の学習内容】
作業療法の臨床場面でどのような理論を用いているのかを理解することにより、作業療法実践における思考過程や治療の根拠に関する理解を深めていくことを目的とする。

※実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】
1. 作業療法に関する理論について習得する。
2. 作業療法特有の実践理論・モデルを習得する。

授業計画・内容	
1回目	理論とは、理論の変遷について説明することができる。
2回目	カナダ作業遂行モデルについて説明することができる。
3回目	人間作業モデル（基本的理論）について説明することができる。
4回目	人間作業モデル（評価）について説明することができる。
5回目	その他の各種モデル（OTIPM等）について説明することができる。
6回目	その他の各種モデル（運動学習モデル等）について説明することができる。
7回目	生活行為向上マネジメントについて説明することができる。
8回目	作業科学における概念について説明することができる。
9回目	試験
準備学習時間外学習	随時、課題を配布するため、積極的に取り組んで授業に参加してください。 また、随時確認テストも行います。できなかった部分を復習してください。
評価方法	1. 定期試験（70%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（30%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 作業療法の理論（作業科学・MOHO・MTDLPなど）を学びます。
受講生へのメッセージ	作業療法の根拠となる考え方について学びます。 難しい表現も出てきますが、生活と結びつけて考えられるようにしましょう。

【教科書】なし

【参考書】ギャーリー・キールホフナー著）：作業療法実践の理論　原書第4版. 医学書院.
ギャーリー・キールホフナー著）：人間作業モデル　理論と応用　改訂第4版. 協同医書出版社.
エリザベス・タウンゼント/ヘレン・ポラタイコ編著：吉川ひろみ/吉野英子監訳：続・作業療法の視点
日本作業療法士協会 監）. 澤田雄二 編）：作業療法学全書 改訂第3版 第2巻　基礎作業学. 協同医書出版社.

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	作業学 実習Ⅱ（ Occupationology Practice Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	作業療法科教員
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	45（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜 ・ 3.4限

【授業の学習内容】

国家試験で出題されやすい作業活動から、現場ですぐに活かせる作業活動まで幅広く経験する。また、それぞれ実施した内容をレポート提出し、知識の整理を行う（アンデルセン、機織り、刺し子、籐細工、作業計画・実施、作業分析）。

※実務者経験
（佐藤）実務者経験：1990年～1997年　尾張温泉リハビリかにえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院　作業療法科で「作業学　実習」を担当。
（磯貝）実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】

作業活動の実践を行い、作業の手順、方法、使用する道具などを理解する。

授業計画・内容	
1回目	作業分析について説明することができる(1)
2回目	作業分析について説明することができる(2)
3回目	作業分析について説明することができる(3)
4回目	刺し子を作成することができる(1)
5回目	刺し子を作成することができる(2)
6回目	刺し子を作成することができる(3)
7回目	刺し子を作成することができる(4)
8回目	機織りを作成することができる(1)
9回目	機織りを作成することができる(2)
10回目	機織りを作成することができる(3)
11回目	機織りを作成することができる(4)
12回目	アンデルセンを作成することができる(1)
13回目	アンデルセンを作成することができる(2)
14回目	アンデルセンを作成することができる(3)
15回目	アンデルセンを作成することができる(4)
16回目	籐細工を作成することができる(1)
17回目	籐細工を作成することができる(2)
18回目	籐細工を作成することができる(3)
19回目	籐細工を作成することができる(4)
20回目	作業の計画・準備をすることができる(1)
21回目	作業の計画・準備をすることができる(2)
22回目	作業の実施・振り返りをすることができる(1)
23回目	作業の実施・振り返りをすることができる(2)

準備学習時間外学習	リハビリテーションに活かすための作業工程を学びます。 作業工程を十分理解するために、基本的な制作過程の習得のために準備する必要があります。		
評価方法	レポート（50%） 課題成果（50%）	評価方法はGPA制度となります	作業療法基礎となる作業活動の実践・分析を経験します。
受講生へのメッセージ	作業の体験をしながら、作業の特徴や治療的応用について学びます。考えながら制作をしてください。 作業の計画では、実際の臨床現場を意識しながら計画建てをしてください。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：なし
参考書：作業−その治療的応用　改訂第2版. 協同医書出版社.
　　作業療法学全書 改訂第3版 第2巻　基礎作業学

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	作業管理学（Management Studies of OT）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤　嘉晃
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜　・　3.4限

【授業の学習内容】
管理マネジメントの考え方を学び、組織運営・職場管理について身につける。

※実務者経験：1990年～1997年　尾張温泉リハビリかにえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院　他校で学科長職で管理業務に従事

【到達目標】
①作業療法に関連する法律や制度について説明できる。
②作業療法部門の組織における位置づけを説明できる。
③作業療法における職業倫理について説明することができる。
④作業療法における管理運営について説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	作業療法におけるマネジメントとは
2回目	作業療法を取り巻く組織について
3回目	作業療法の役割と職域について
4回目	作業療法の職業倫理①
5回目	作業療法の職業倫理②
6回目	リスク管理①（情報）
7回目	リスク管理②（医療安全）
8回目	作業療法業務のマネジメント①（環境整備・物品管理）
9回目	作業療法業務のマネジメント②（時間・ストレス）
10回目	作業療法業務のマネジメント③（情報）
11回目	作業療法に関連する制度①（医療保険制度）
12回目	作業療法に関連する制度②（介護保険制度）
13回目	作業療法に関連する制度③（障害者福祉制度）
14回目	作業療法士の人材育成①（作業療法教育課程・臨床実習）
15回目	作業療法士の人材育成②（卒後教育・生涯教育）
16回目	試験
準備学習時間外学習	特になし
評価方法	1．定期試験100（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 本科目は、作業療法における管理・運営について講義を中心に進め、筆記試験にて成績を判定する。
受講生へのメッセージ	作業療法士として働くうえで、自分自身のマネジメントは重要な課題となる。 講義の中では、自分自身のマネジメントについて考える課題を実施する予定。

【使用教科書・教材・参考書】

参考資料：大庭潤平　編）：作業療法管理学入門．医歯薬出版株式会社．

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	身体機能評価学（ Evaluate Physical Function ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	植村 篤志
学科	作業療法科	授業形態	演習	総時間（単位）	30（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 ・ 2限

【授業の学習内容】

第1章 オリエンテーション、意識、バイタルサイン
第2章 知覚（感覚）検査
第3章 反射検査、姿勢反射検査
第4章 筋緊張検査、協調性検査
第5章 形態計測、脳神経検査
第6章 上肢機能検査
第7章 関節可動域（ROM） 測定
第8章 筋力検査（MMT）

注）講義の順番は【身体機能評価学 実習】の進行に合わせて前後する場合があります

※実務者経験：2012年に作業療法士免許を取得し、京都民医連第二中央病院（京都市）および五条川リハビリテーション病院（愛知県清須市）にて約10年勤務。身体障害・老年期障害を中心として入院（急性期～回復期～療養）や通所リハに従事。臨床業務のほか実習指導、新人教育、地域事業や士会活動などにも携わり、2022年3月より本学の専任教員となる。

【到達目標】

・身体機能に関わる作業療法評価法を習得する。
・各種評価法を理解し、説明できるようになる。
・対象者の状況に合わせて、適切な作業療法評価を選択し、方針を立てられるようになる。
・各種評価法を通じて、対象者の生活機能や障害像を正確に把握できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	身体機能評価の意義・位置づけを理解する。意識、バイタルサインの意義と方法を説明することができる。
2回目	知覚（感覚）検査の意義と方法を説明することができる。
3回目	知覚（感覚）検査の意義と方法を説明することができる。
4回目	反射検査、姿勢反射検査の意義と方法を説明することができる。
5回目	反射検査、姿勢反射検査の意義と方法を説明することができる。
6回目	筋緊張検査、協調性検査の意義と方法を説明することができる。
7回目	筋緊張検査、協調性検査の意義と方法を説明することができる。
8回目	形態計測、脳神経検査の意義と方法を説明することができる。
9回目	形態計測、脳神経検査の意義と方法を説明することができる。
10回目	上肢機能検査の意義と方法を説明することができる。
11回目	上肢機能検査の意義と方法を説明することができる。
12回目	関節可動域（ROM）測定の意義と方法を説明することができる。
13回目	関節可動域（ROM）測定の意義と方法を説明することができる。
14回目	筋力検査（MMT）の意義と方法を説明することができる。
15回目	筋力検査（MMT）の意義と方法を説明することができる。
16回目	試験
準備学習時間外学習	作業療法評価に関する知識・理解を定着させるためには、予習や復習が必要となります。（特に、日常的な復習が求められます） また、授業内容に対するレポート課題がでることがあります。
評価方法	小テスト （20%） 定期試験 （80%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 身体機能の評価法について学びます。
受講生へのメッセージ	本科目は、実技や治療学、あるいは実習の前段階となる重要な位置づけにあります。評価は、対象者を深く知り、理解することです。面接や観察、検査・測定などの評価法を着実に習得することで、対象者の生活機能および障害像に関する情報を収集・解釈・統合したり、効果的な治療計画立案や作業療法介入へ繋げたりできるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	身体機能評価学 実習（Practical Evaluate Physical Function）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	植村　篤志・小林 由美
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	45（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜　・　3.4限

【授業の学習内容】

第1章　意識、バイタルサイン　　第2章　形態計測、脳神経検査　　第3章　関節可動域測定
第4章　筋力検査　　第5章　知覚検査　　第6章　反射検査、姿勢反射検査
第7章　筋緊張検査、協調性検査　　第8章　上肢機能検査
※実務者経験：2000年4月に作業療法士を取得し、医療法人
光生会にて回復期、老年期、地域の作業療法に関わる。また2005年に介護予防運動指導員として地域の予防活動に参加する。2008年より専門学校教員として講義を行いながら、整形外科病院やデイサービスで臨床に携わる。

【到達目標】

・身体機能に関わる作業療法評価法を習得する。
・各種評価法を適切な手順、方法で実施できる。
・治療・援助を必要とする対象者に対して適切な作業療法を選択し導入するための方針を得ることができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	意識、バイタルサインを計測することができる。
2回目	形態計測を計測することができる。
3回目	脳神経検査を計測することができる。
4回目	関節可動域（上肢・下肢）を計測することができる。
5回目	関節可動域（下肢・頸部）を計測することができる。
6回目	MMT（上肢）を計測することができる。
7回目	MMT（上肢）を計測することができる。
8回目	MMT（下肢）を計測することができる。
9回目	MMT（下肢）を計測することができる。
10回目	MMT（体幹・頚部）を計測することができる。
11回目	知覚検査（表在）を計測することができる。
12回目	知覚検査（表在・深部）を計測することができる。
13回目	知覚検査（深部）を計測することができる。
14回目	反射検査を計測することができる。
15回目	姿勢反射検査を計測することができる。
16回目	筋緊張検査を計測することができる。
17回目	協調性検査を計測することができる。
18回目	上肢機能検査を計測することができる。
19回目	1～18の検査を熟練することができる。
20回目	1～18の検査を熟練することができる。
21回目	1～18の検査を熟練することができる。
22回目	1～18の検査を熟練することができる。
23回目	実技試験
準備学習 時間外学習	作業療法評価方法を習得します。基本的な知識が身についていない場合、予習が復習になります。 また、作業療法評価について理解を深めるためにレポート課題が随時あります。
評価方法	実地試験（100%）　評価方法はGPA制度となります　身体機能の評価法の技術を学び実践します。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版　医学書院

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	認知・精神機能評価学（Evaluate Cognitive and Mental Function）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	横山 剛 磯貝 理栄
学科	作業療法科	授業形態	演習	総時間（単位）	30（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜 ・ 1,2限

【授業の学習内容】

精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を習得する。

※実務者経験：（横山）1992年に作業療法士の資格を取得。1992～1998年まで成増厚生病院、1998～2001年まで笠寺精治寮病院にて勤務。2001年～現在、専門学校愛知医療学院を経て愛知医療学院短期大学において精神障害領域の作業療法科目をを中心に授業担当している。
※実務者経験：（磯貝）1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】

1. 精神・認知機能の作業療法評価に必要な知識を述べることができる。
2. 高次脳機能評価の例を挙げることができる。
3. 精神機能評価の例を挙げることができる。
4. 各評価の特徴を述べることができる。

授業計画・内容	
1回目	精神機能作業療法評価学の基礎について説明することができる
2回目	精神機能作業療法における情報収集について説明することができる
3回目	精神機能作業療法における観察法と面接法について説明することができる①
4回目	精神機能作業療法における観察法と面接法について説明することができる②
5回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる①
6回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる②
7回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる③
8回目	集団における評価について説明することができる
9回目	高次脳機能と脳機能の関連について説明することができる
10回目	意識、見当識、知能の障害における検査法と留意点について説明することができる
11回目	記憶障害における検査法と留意点について説明することができる
12回目	注意障害における検査法と留意点について説明することができる
13回目	半側空間無視における検査法と留意点について説明することができる
14回目	失認、失行における検査法と留意点について説明することができる
15回目	失語、遂行機能障害における検査法と留意点について説明することができる
16回目	試験
準備学習時間外学習	初めて聞く用語が登場してくると思いますのであらかじめテキストを予習してくると理解が進みます。試験前だけでなく毎回復習をしてください。
評価方法	定期試験 （100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 認知・精神機能の評価法について学びます。
受講生へのメッセージ	自身の行動に置き換えながら、高次脳機能・精神機能の特徴について知識を深めていきましょう。 沢山の検査が出てきます。その特性により類別しながら、学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

石合純夫：高次脳機能障害学　第3版. 医歯薬出版株式会社.
能登真一ら 監）：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版. 医学書院

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	認知・精神機能評価学 実習（Practical Evaluate Cognitive and Mental Function）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	田口真司・磯貝理栄
学科	作業療法科	授業形態	実習	総時間（単位）	45（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】
精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を習得する。

※実務者経験：（田口）2000年に作業療法士の資格を取得。2000年～2005年まで久田病院に勤務。2005年～2012年日本医療福祉専門学校にて精神領域の科目を担当。2012年より矢作川病院に勤務しながら中部大学にて臨床准教授として教育に携わる。
※実務者経験：（磯貝）1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】
1. 精神・認知機能の作業療法評価の特性を述べることができる。 2. 精神機能評価の項目を挙げ、評価方法を述べることができる。
3. 観察評価の視点を説明できる。　4. 高次脳機能評価の例を挙げ、実施できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを実施することができる。
2回目	精神障害分野の評価を分類することができる。
3回目	観察演習を実施することができる（1）
4回目	観察演習を実施することができる（2）
5回目	観察演習を実施することができる（3）
6回目	箱作り法の評価を列挙することができる。
7回目	事例演習を実施することができる（1）
8回目	事例演習を実施することができる（2）
9回目	事例演習を実施することができる（3）
10回目	1～9のレポートを修正することができる。
11回目	高次脳機能評価について説明することができる。
12回目	MMSEの評価を理解し実施することができる。
13回目	HDS-Rの評価を理解し実施することができる。
14回目	三宅式記銘力検査の評価を理解し実施することができる。
15回目	ベントン視覚記銘検査の評価を理解し実施することができる。
16回目	BITの評価を理解し実施することができる。
17回目	TMTの評価を理解し実施することができる。
18回目	コース立方体の評価を理解し実施することができる。
19回目	VPSTの評価を理解し実施することができる。
20回目	BADSの評価を理解し実施することができる。
21回目	SLTAの評価を理解し実施することができる。
22回目	その他（WAIS等）の評価を理解し実施することができる。
23回目	各評価の評価方法を確認し、留意点を述べることができる。
24回目	実技試験
準備学習時間外学習	実技科目は何度も実施することにより身に付きます。積極的に自己学習を行ってください。
評価方法	レポート（50%） 実地試験（50%） 評価方法はGPA制度となります 認知・精神機能の評価法の技術を学び実践します。
受講生へのメッセージ	【精神領域】 作業治療学　精神障害で得た知識の、臨床的活用方法を学びます。グループワークなども展開しますので、黙っていても時間は過ぎます。しかし、知識は身につきません。 主体的に講義に参加してください。 【認知領域】 高次脳機能障害を呈する対象者に必要な評価の計画を立案し、実際に正しい手法で評価を行い、正確に記録して採点できるまでを目標としています。評価を正しく実施するためには、繰り返し練習することが必要です。講義時間内に限らず、積極的に練習を積み重ねて下さい。

【使用教科書・教材・参考書】
山根寛 著）：精神障害と作業療法　第3版. 三輪書店.
標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版. 医学書院

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	作業治療学 概論（ Introduction to Treatment Methodology ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	横山　純子
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	15（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

作業療法が対象とする作業について知識を深め、作業遂行が可能となる（作業ができるようになる）にはどのような条件が必要となるかを講義およびディスカッションを通じて学習する。

※実務者経験：1992年4月～2018年3月まで一般病床、回復期病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション施設等様々な分野において主に身体機能領域に従事。

【到達目標】

1. 作業療法が対象とする作業について説明できる。
2. 作業遂行が可能となるとはどのようなことか説明できる。
3. 作業遂行が可能になるための介入過程を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	作業について理解し説明することができる。
2回目	作業療法の適応の範囲を説明することができる（1）
3回目	作業療法の適応の範囲を説明することができる（2）
4回目	作業遂行について説明することができる。
5回目	作業遂行技能の評価方法を列挙することができる。
6回目	作業遂行技能の評価方法を列挙することができる。
7回目	作業遂行技能介入の考え方を理解し説明することができる。
8回目	作業遂行技能介入の考え方を理解し説明することができる。
9回目	試験
準備学習時間外学習	簡単な事前課題を提示する。講義は、事前課題をもとに進めるため、必ず事前課題を実施したうえで参加すること。
評価方法	1. 定期試験50（%） 2. レポート50（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 作業療法実践の概要について学びます。
受講生へのメッセージ	作業療法士の介入目的は、対象者の作業遂行が可能となる事である。作業遂行に関して学ぶことによって、今後学んでいく講義が、作業遂行のどの過程につながるかを考えられるようになることを期待する。

【使用教科書・教材・参考書】

作業療法学全書　改定第3版　第4巻　作業療法治療学1　身体障害　協同医書出版社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	作業治療学 演習Ⅰ（ Seminar to OT Methodology Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	植村 篤志
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

中枢神経疾患および整形外科系疾患の治療技法を実施し、作業療法技術を身につける。

※実務者経験：2012年に作業療法士免許を取得。あすかい病院（京都市）、五条川リハビリテーション病院（愛知県清須市）にて約10年勤務。身体障害・老年期障害を中心として入院（急性期～回復期～療養）や通所リハに従事。臨床業務のほか実習指導、新人教育、地域事業や士会活動などにも携わり、2022年3月より本学の専任教員となる。

【到達目標】

本科目は、作業療法の治療技法に関する演習を中心に講義を進める
①身体障害の作業療法における治療理論を説明できる。
②身体障害の作業療法における治療技術を模倣できる。
③主要な疾患（脳血管障害、脊髄損傷、大腿骨近位部骨折）における具体的な治療計画の立案ができる。

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション・総論　治療学演習とは（リハ中止基準、ボディメカニクス、運動学習、物理療法etc.）
2回目	関節可動域に対する介入について説明できる。
3回目	関節可動域に対する介入について模倣できる。
4回目	筋力・筋持久力・廃用症候群に対する介入を説明できる。
5回目	筋力・筋持久力・廃用症候群に対する介入を模倣できる。
6回目	感覚障害・筋緊張異常・不随意運動・協調性障害に対する介入について説明できる。
7回目	感覚障害・筋緊張異常・不随意運動・協調性障害に対する介入について模倣できる。
8回目	脳血管疾患の介入について説明できる。
9回目	脳血管疾患の介入について模倣できる。
10回目	脊髄損傷の介入について説明できる。
11回目	脊髄損傷の介入について模倣できる。
12回目	整形疾患（主として大腿骨近位部骨折）の介入について説明・模倣できる。
13回目	整形疾患（主として大腿骨近位部骨折）の介入について説明・模倣できる。
14回目	中枢神経疾患の事例を通して治療計画の立案ができる。
15回目	中枢神経疾患の事例を通して治療計画の立案ができる。
16回目	試験
準備学習時間外学習	講義の中では、病態や評価にもとづく治療介入について講義を行う。 その際には神経内科学で学んだ中枢神経疾患や評価学の復習が不可欠となる。
評価方法	1．課題達成度・授業貢献度　50（%） 2．期末試験　50（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 評価、作業療法の治療について学び、事例検討や実技実習などを経験します。
受講生へのメッセージ	作業療法の対象者は、障害を持つことによって生活スタイルの再構築が必要となることが多い。 本講義では、再構築のプロセスのにおいて身体機能に対する介入を中心に講義していく。

【使用教科書・教材・参考書】

日本作業療法士協会 監）菅原洋子 編）：作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害．協同医書出版社．

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	身体機能治療学Ⅰ（ Physical Function Treatment Methodology Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	増尾 明 ・横山 純子
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 ・ 1．2限

【授業の学習内容】
教科書や配布資料によって、中枢神経疾患に対する評価から治療に至る過程について講義を行う。各疾患の臨床像を理解し、その生活機能障害に対し教科書や配布資料によって、中枢神経疾患に対する評価から治療に至る過程について講義を展開する。
※実務経験：
【増尾】2007年に作業療法士免許を取得。回復期病院、訪問看護ステーションで、主に身体障害者領域に従事。
【横山】1992年4月～2018年3月まで一般病床、回復期病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション施設において主に身体障害者領域に従事。

【到達目標】
本科目は、脳血管疾患など中枢神経疾患について、障害像、評価方法、治療・訓練方法を学習する。
1. 身体障害の作業療法の治療理論を説明できる。
2. 中枢疾患による障害の特徴を説明できる。
3. 中枢疾患に対する作業療法の基本的な考え方を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	脳血管疾患の病態について説明できる。
2回目	脳血管疾患の作業療法計画が立案できる。
3回目	頭部外傷の病態について説明できる。
4回目	頭部外傷の作業療法計画が説明できる。
5回目	パーキンソン病の病態を説明できる。
6回目	パーキンソン病の作業療法計画が説明できる。
7回目	脊髄小脳変性症の病態について説明ができる
8回目	脊髄小脳変性症の作業療法計画が説明できる
9回目	ギランバレー症候群の病態について説明できる
10回目	ギランバレー症候群の作業療法計画が説明できる
11回目	筋ジストロフィーの病態について説明することができる
12回目	筋ジストロフィーの作業療法計画が説明できる
13回目	筋萎縮性側索硬化症の病態について説明できる
14回目	筋萎縮性側索硬化症の作業療法について説明することができる
15回目	多発性硬化症の病態と作業療法計画について説明することができる
16回目	試験

準備学習時間外学習	講義の中では、病態について講義を行う。その際には神経内科学で学んだ中枢神経疾患の復習が不可欠。		
評価方法	1．定期試験100（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	中枢疾患の作業療法を計画する上で必要な基礎知識を学びます。
受講生へのメッセージ	中枢神経系の疾患を持つ対象者は、障害を持つことによって生活スタイルの再構築が必要となることが多い。 本講義では、再構築のプロセスのにおいて身体機能に対する介入を中心に講義していく。		

【使用教科書・教材・参考書】
日本作業療法士協会 監）菅原洋子 編）：作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害．協同医書出版社．

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	身体機能治療学Ⅱ（ Physical Function Treatment Methodology Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	増尾 明 ・横山 純子
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 ・ 1・2限

【授業の学習内容】

整形外科系障害に対する評価項目・治療技術について学習する。整形外科理解を深めるために、解剖学的根拠を示しながら講義を展開する。
※実務経験：
【増尾】2007年に作業療法士免許を取得。回復期病院、訪問看護ステーションで、身体障害者領域に従事。
【横山】1992年4月～2018年3月、一般病床、回復期病棟や地域のリハビリテーション施設において身体障害者領域に従事。

【到達目標】

1. 整形外科系疾患を理解・把握する。
2. 整形外科系疾患の評価について理解し、説明できる。
3. 整形外科系疾患の治療について理解し、説明できる。

授業計画・内容	
1回目	脊髄損傷の病態について説明できる
2回目	脊髄損傷の病態について説明できる。
3回目	脊髄損傷の作業療法計画について説明できる。
4回目	脊髄損傷の作業療法計画について説明できる。
5回目	骨折の作業療法について説明ができる。
6回目	骨折の作業療法について説明ができる。
7回目	腱損傷の作業療法について説明できる。
8回目	末梢神経損傷の作業療法について説明できる。
9回目	末梢神経損傷の作業療法計画について説明できる。
10回目	関節リュウマチの作業療法について説明できる。
11回目	熱傷の作業療法について説明することができる
12回目	重症筋無力症の作業療法について説明することができる
13回目	重症筋無力症の作業療法について説明することができる
14回目	ニューロパチーの作業療法について説明することができる
15回目	筋炎の作業療法について説明することができる
16回目	試験

準備学習時間外学習	解剖学的根拠を示しながら講義をすすめていくため、解剖学の復習が不可欠である。 また、整形外科疾患の病態の知識が必要となるため、整形外科学の復習が必要。		
評価方法	1. 定期試験100（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	脊髄損傷・末梢神経障害・手外科の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。
受講生へのメッセージ	臨床実習Ⅰで見学した整形外科疾患の場面を思い出しながら受講するとイメージがつきやすい。 講義では、様々な治療法の紹介をする。なぜその治療法が選択されるのか？根拠を考えながら講義に参加してほしい。		

【使用教科書・教材・参考書】

日本作業療法士協会 監）菅原洋子 編）：作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害. 協同医書出版社.

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	精神機能治療学Ⅰ（Psychological Function OT Methodology Ⅰ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	田口　真司
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜　・　1.2限

【授業の学習内容】
精神科領域における作業療法について学ぶ。さらに主要疾患の障害の特性、関連する治療を習得する。

※実務者経験：2000年に作業療法士の資格を取得。2000年～2005年まで久田病院に勤務。2005年～2012年日本医療福祉専門学校にて精神領域の科目を担当。2012年より矢作川病院に勤務しながら中部大学にて臨床准教授として教育に携わる。

【到達目標】
1. 精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎を理解する。
2. 疾患特性に合致した作業療法評価、治療を説明できる。
3. 各時期の回復過程、作業療法の役割を説明できる。
4. 精神医療の歴史を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	精神障害と作業療法について説明することができる（1）
2回目	精神障害と作業療法について説明することができる（2）
3回目	精神医療の歴史について説明することができる（1）
4回目	精神医療の歴史について説明することができる（2）
5回目	作業療法の治療・支援構造について説明することができる（1）
6回目	作業療法の治療・支援構造について説明することができる（2）
7回目	統合失調症スペクトラムについて説明することができる。
8回目	統合失調症の作業療法について説明することができる（1）
9回目	統合失調症の作業療法について説明することができる（2）
10回目	統合失調症の作業療法について説明することができる（3）
11回目	統合失調症の作業療法について説明することができる（4）
12回目	気分障害の作業療法について説明することができる（1）
13回目	気分障害の作業療法について説明することができる（2）
14回目	気分障害の作業療法について説明することができる（3）
15回目	気分障害の作業療法について説明することができる（4）
準備学習時間外学習	精神科作業療法の概念・治療・支援は国家試験においても多く出題されます。 事例を含めての見直しをしておいてください。
評価方法	定期試験（100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 精神科作業療法の概念、治療・援助構造について学びます。 また、代表的な精神疾患の特徴、評価、治療についても学びます。
受講生へのメッセージ	教科書を中心に講義を進めますので、重要ですが退屈です。 重要さは、臨床に出てから気付きます。 実習中はもとより、臨床に出てからも立ち戻れる教科書作りも講義内の大切な目的です。 ラインマーカーや、インデックス、付箋を用いて、オリジナルの教科書を作り、知識定着に役立ててください。

【使用教科書・教材・参考書】

山根寛 著）：精神障害と作業療法　新版. 三輪書店.
【参考書】
日本作業療法士協会 監）冨岡詔子、他編）：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害.協同医書出版社.

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	精神機能治療学Ⅱ（Psychological Function OT Methodology Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	横山　剛
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜　・　1,2限

【授業の学習内容】
精神科領域における作業療法について学ぶ。さらに代表的な精神疾患の障害の特性、関連する治療について修得する。

※実務者経験：1992年に作業療法士の資格を取得。1992～1998年まで成増厚生病院、1998～2001年まで笠寺精治寮病院にて勤務。2001年～現在、専門学校愛知医療学院を経て愛知医療学院短期大学において精神障害領域の作業療法科目をを中心に授業担当している。

【到達目標】
1. 精神疾患の臨床像および疾患特性を理解し、作業療法について説明することができる。
2.作業療法における留意点を説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	神経症圏の作業療法について説明することができる①
2回目	神経症圏の作業療法について説明することができる②
3回目	摂食障害の作業療法について説明することができる①
4回目	摂食障害の作業療法について説明することができる②
5回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる①
6回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる②
7回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる③
8回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる①
9回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる②
10回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる③
11回目	発達障害の作業療法について説明することができる（自閉症性障害を中心に）①
12回目	発達障害の作業療法について説明することができる（自閉症性障害を中心に）②
13回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる①
14回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる②
15回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる③

準備学習時間外学習	初めて聞く用語が登場してくると思いますのであらかじめテキストを予習してくると理解が進みます。試験前だけでなく毎回復習をしてください。		
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	代表的な精神疾患の特徴、評価、治療について学びます。
受講生へのメッセージ	テキストを中心に授業を進めていきます。できるだけなじみがあるような用語を使用するなどして説明できるように頑張っていきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

山根寛 著）：精神障害と作業療法　新版. 三輪書店.

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	老年期治療学（Senile Disorders OT Methodology）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	小林　由美
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜　・　3限

【授業の学習内容】

老年期に起こりやすい疾患および合併症を抱えた対象者に対する作業療法について学ぶ。さらに、病院や施設での認知症を含めた高齢者の作業や日常生活、またそれらに対する作業療法の介入について習得する。
※実務者経験：2000年4月に作業療法士を取得し、医療法人
光生会にて回復期、老年期、地域の作業療法に関わる。また2005年に介護予防運動指導員として地域の予防活動に参加する。2008年より専門学校教員として講義を行いながら、整形外科病院やデイサービスで臨床に携わる。

【到達目標】

1. 日本の高齢者の現状と特徴について理解する。
2. 予防保険医学について説明できる。
3. 廃用症候群について説明できる。
4. 高齢者に特徴的な認知症の作業療法について理解する。
5. 高齢者の生活の場についての知識を深め、説明できる。
6. 高齢者をとりまく環境と健康について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	老年期作業療法の目的について説明することができる。
2回目	老年期作業療法の目的について説明することができる。
3回目	老年期の変化について説明することができる。
4回目	老年期の変化について説明することができる。
5回目	摂食嚥下障害の基礎・評価治療について説明することができる。
6回目	摂食嚥下障害の基礎・評価治療について説明することができる。
7回目	排泄障害の基礎・評価治療について説明することができる。
8回目	排泄障害よよび睡眠障害の基礎・評価治療について説明することができる。
9回目	老年期の整形疾患について説明することができる。
10回目	老年期の整形疾患について説明することができる。
11回目	介護予防についての基礎・評価について説明することができる。
12回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。
13回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。
14回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。
15回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。
	試験
準備学習時間外学習	毎回、確認プリントを配布します。確認プリントの内容を把握し、試験に取り組んでください。 確認プリントは授業時間内では行いません。時間外学習として活用ください。
評価方法	定期試験（100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 高齢者において特徴的な症状や廃用症候群、認知症などの評価、治療について学びます。
受講生へのメッセージ	高齢者によくおこる疾患や障害および高齢者をとりまく環境についての知識を深め、残りの人生をその人らしく生きるための 支援について一緒に考えましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

老年期の作業療法　改訂第3版　三輪書店

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	高次脳機能治療学（Higher Brain Dysfunctional OT Methodology）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	坪井　理佳
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜　・　1,2.,3限

【授業の学習内容】

・脳の機能について習得する。
・高次脳機能障害（注意障害、記憶障害、失語、失行、失認、半側空間無視、遂行機能障害など）の病巣と症状を習得する。
・高次脳機能障害の臨床像（ADLや社会活動にどのような影響を与えるか）、評価、治療について習得する。

※実務者経験：2003年に作業療法士免許を取得し、身体障害者領域のリハビリテーションに携わってきた。高次脳機能障害やパーキンソン病に関する、学会発表や学術論文掲載の実績が多数ある。

【到達目標】

1. 大脳の機能を説明できる。
2. 高次脳機能障害の病巣と症状を説明できる。
3. 高次脳機能障害の評価、治療につなげる基本的な考え方を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	脳機能について理解し説明することができる。
2回目	注意と注意障害について理解し説明することができる。
3回目	注意と注意障害について理解し説明することができる。
4回目	記憶と記憶障害について理解し説明することができる。
5回目	言語と失語症について理解し説明することができる。
6回目	視覚認知と失認について理解し説明することができる。
7回目	半側空間無視について理解し説明することができる。
8回目	半側空間無視について理解し説明することができる。
9回目	行為と失行について理解し説明することができる。
10回目	行為と失行について理解し説明することができる。
11回目	遂行機能について理解し説明することができる。
12回目	事例について検討することができる。
13回目	事例について検討することができる。
14回目	事例について検討することができる。
15回目	1～14の復習をし試験準備をすることができる。
16回目	試験

準備学習時間外学習	高次脳機能障害の特徴や検査法について近年多く国家試験にて出題されています。講義外の時間を使用して復習してください。		
評価方法	定期試験（100%）	評価方法はGPA制度となります	高次脳機能障害の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。
受講生へのメッセージ	本科目で目指す知識水準はこのレベルとします。 1）臨床実習に通用する 2）国家試験に合格できる		

【使用教科書・教材・参考書】

石合純夫：高次脳機能障害学　第3版. 医歯薬出版株式会社.

【参考書】

河村満
編）：急性期から取り組む高次脳機能障害リハビリテーション　QOL向上のために今すぐできる日常生活援助. メディカ出版.
日本作業療法士協会 監）：作業療法学全書 改訂第3版 第8巻　作業治療学5
高次脳機能障害. 協同医書出版社.
平山和美　編）：高次脳機能障害の理解と診察. 中外医学社.

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	義肢装具学（Prosthetics and Orthotics）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤　嘉晃
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	15（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜　・　4限

【授業の学習内容】

広範囲の内容になりますが、義肢装具は臨床で医師・理学療法士・義肢装具士と協業することが多いので、作業療法士として必要な基礎知識を中心に本授業の中で扱います。実際の臨床場面では、作業に焦点をあてて装具療法が行われることを理解しながら、授業に臨んでいただけることを期待しています。
※実務者経験：1990年～1997年　尾張温泉リハビリかにえ病院で臨床業務に従事。2005年～日本医療福祉専門学校　作業療法科で「義肢装具学」を担当。

【到達目標】

作業療法士として義肢装具を用いた治療を実施することができるようになるために、義肢の構造と適応、装具の種類と適応について学ぶ。またスプリントの製作技法について習得する。
＜SBO（s）＞抜粋
1．切断　1）切断の定義を説明することができる　2）切断の原因を列挙することができる
2．義肢（義手　義足）　1）　義肢の分類を説明する事ができる　2)義手の定義を述べることができる　3)義手の構成要素を列挙することができる　4)義足の定義を述べることができる　5)義足の分類を説明することができる
3．装具とスプリント　1)装具の定義を述べることができる　2)装具の分類を説明することができる

授業計画・内容	
1回目	義肢･装具・切断の定義について理解し説明することができる。
2回目	義手のチェックアウトについて理解し説明することができる。
3回目	義足のチェックアウトについて理解し説明することができる。
4回目	電動義手の訓練について説明することができる
5回目	上下肢装具について理解し説明することができる。
6回目	疾患別装具について理解し説明することができる。
7回目	疾患別装具について理解し説明することができる。
8回目	スプリントの作成を実施することができる。
9回目	試験
準備学習時間外学習	名称・チェックアウトは暗記が多いです。疾患別装具では、疾患の復習をして関連して覚えてください。
評価方法	定期試験（100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
	義肢・装具の機能の知識と評価、およびリハビリテーション医療における プログラムのたて方を学びます。
受講生へのメッセージ	装具療法は作業療法の一つの手段です。適切に使用できると手段が増えます。

【使用教科書・教材・参考書】

作業療法学全書　作業療法技術学1　義肢装具学　協同医書出版社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	日常生活活動学（Activities of Daily Living）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	横山　純子
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	30（2）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜・ 3.4限

【授業の学習内容】
作業療法士は生活全般の活動を支援する職業である。その中でも日常生活活動はすべての人に共通する活動である。私たちが日々当たり前に行っている日常生活活動に対する疾患別の支援方法を学んでいく。
※実務者経験
1992年4月～2018年3月まで一般病床、回復期病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション施設等様々な分野において臨床業務に従事。

【到達目標】
1.日々行っている日常生活活動について理解し、説明できる。
2.疾患別の日常生活活動に対する支援方法を説明できる。
3.日常生活活動の支援の流れを説明できる。

授業計画・内容	
1回目	日常生活活動の概念とその範囲について説明できる。
2回目	ADLの評価について説明できる。
3回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脳血管疾患）
4回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脳血管疾患）
5回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（筋委縮性側索硬化症）
6回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脊髄損傷）
7回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脊髄損傷）
8回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（関節リュウマチ）
9回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（上肢切断）
10回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（下肢切断）
11回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（進行性筋ジストロフィー）
12回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（パーキンソン病）
13回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脳性麻痺）
14回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（高次脳機能障害）
15回目	まとめ
16回目	試験

準備学習時間外学習	この講義では、疾患別に支援方法を学んでいきます。学習にあたっては、各疾患の病態に関する知識が必要になります。 1年生で学んだ各疾患の病態を復習したうえで参加すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	1. 定期試験50（%） 2. 課題成果・出席率50（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	ADLの概念を理解し、ADL支援を行うための過程を学びます。
受講生へのメッセージ	日常生活活動の支援は作業療法士が対象とするすべての疾患に行われます。支援計画を立案する際には、日常生活活動が、どのような動きによって行われているか知ることが必要です。日頃、無意識に行っている日常生活活動を見つめなおす機会を作ってください。		

【使用教科書・教材・参考書】
ADLとその周辺　評価・指導・介護の実際　第3版　　医学書院
授業内で追加資料を配布

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	日常生活活動 実習（Prctical Activities of Daily Living）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	横山　純子・植村　篤志
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	90（2）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜　・　3.4限

【授業の学習内容】
日常生活活動で学んだ知識をもとに、授業の前半では、基本動作を中心に障害が及ぼす影響と自立に向けた援助・介助方法について学ぶ。授業後半では、模擬患者に対して、日常生活活動の支援計画の立案を行い、成果を発表する。
※実務者経験
【横山】1992年～2018年：一般病床、回復期病棟、施設等の臨床業務に従事。
【植村】2012年～2022年：急性期・回復期・療養病床・通所施設の臨床業務に従事。

【到達目標】
①疾患別の日常生活活動に対する介助方法を学び、介助ができる。
②疾患別の自助具・支援機器について学び、疾患の残存能力に合わせて選択できる。
③模擬患者に対して、日常生活活動の支援計画の立案ができる。

授業計画・内容	
1. 2回目	日常生活活動の概念とその範囲について説明できる。
3. 4回目	ADLの評価を実施できる。
5. 6回目	日常生活活動の動作分析（食事・更衣・整容）
7. 8回目	日常生活活動の動作分析（排泄・入浴）
9.10回目	日常生活関連活動の動作分析（家事動作）
10.11回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる（脳血管疾患　食事・更衣・整容）
12.13回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる（脳血管疾患　食事・更衣・整容）
14.15回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる（脳血管疾患　排泄・入浴）
16.17回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脳血管疾患　排泄・入浴）
18.19回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（脊髄損傷）
20.21回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（上肢切断）
22.23回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（下肢切断）
24.25回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（進行性筋ジストロフィー）
26.27回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（パーキンソン病）
28.29回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる（関節リュウマチ）
30.31回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について説明できる。（買い物）
32.33回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。（買い物）
34.35回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について説明できる。（調理）
36.37回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。（調理）
38.39回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。（調理）
40.41回目	MTDLPについて説明できる
42.43回目	MTDLPについて模倣できる
44.45回目	MTDLPについて実施することが出来る

準備学習 時間外学習	世の中には多くの便利グッズ売られている。それらの便利グッズは、様々な疾患へ応用できる。日々の生活の中で、それらの便利グッズがどの疾患にどのように応用できるか考え、アンテナを張り、情報収集に努めてほしい。		
評価方法	1. 出席率50（%） 2. 課題成果50（%）	評価方法はGPA制度となります	ADL実施時の、障害がおよぼす影響とそれに対する考察、それら自立に向けた援助、介助方法について学ぶ。
受講生へのメッセージ	我々作業療法士は対象者に適した自助具や支援機器の選定、環境の調整を行っていかなければならない。対象者の置かれている生活スタイルは様々である。対象者の様々な生活スタイルに合わせた選定の過程においては、既存の方法では対応できないケースも多い。この授業を通して、既存のものにとらわれず、新たな支援方法のアイデアが生まれることを期待する。		

【使用教科書・教材・参考書】
作業療法学全書　作業療法技術学3　日常生活活動　協同医書出版社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	生活支援機器学（Assistive Technology with Support Equipment）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	磯貝　理栄
学科	作業療法科	授業形態	演習	総時間（単位）	30（1）	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜　・　3限

【授業の学習内容】

障害をもつ作業療法対象者の生活を支援するためには、適切な道具や福祉用具の活用と住環境整備が必要不可欠である。本講義では障害のある人が、自らの意思でやりたいことができる生活を達成するために必要な道具や福祉用具の実際について学ぶ。

※実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。また、日本作業療法士協会の福祉用具研修の運営に携わっている。

【到達目標】

1. 福祉用具の定義や概念を理解する
2. 作業療法と福祉用具支援技術の関係について理解する
3. 福祉用具に関する制度を理解する
4. ADL、IADLで用いられる福祉用具の特徴と使用方法について理解する
5. 福祉用具に関する情報収集、福祉用具に関わる他職種との連携について理解する

授業計画・内容	
1回目	福祉用具の定義、歴史、関連する制度について説明することができる。
2回目	補装具支給制度と介護保険制度に関する種目を列挙し説明することができる。
3回目	移動関連用具を列挙し説明することができる。
4回目	移動関連用具の調整をすることができる。
5回目	ベッド関連用具を列挙し説明することができる。
6回目	移乗関連用具を列挙し説明することができる。
7回目	移乗関連用具の使い方を説明することができる。
8回目	排泄・入浴関連用具を列挙し説明することができる。
9回目	IADL関連用具を列挙し説明することができる。
10回目	コミュニケーション関連用具を列挙し説明することができる。
11回目	自助具について説明することができる。
12回目	自助具の考案・作成ができる。
13回目	家事演習を実施することができる。
14回目	家事演習を実施することができる。
15回目	事例を用いて、福祉用具の導入検討ができる。
16回目	試験

準備学習時間外学習	各障害と福祉用具の適応について説明するため、各疾患の障害像について1年次の内容の予習が必要です。 100円ショップやホームセンターなどに行き、使えそうな用具や材料について調査してください。		
評価方法	1. 定期試験 （100%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	障害のある人が、自らの意志でやりたいことができる生活を達成するために必要な道具や福祉用具の実際について学びます。
受講生へのメッセージ	作業療法の中で福祉用具は重要な支援技術です。 様々な福祉用具を体験して特徴を知り、より良い生活を過ごしていただくための支援技術を学んでください。		

【使用教科書・教材・参考書】

日本作業療法士協会 監）：作業療法学全書 改訂第3版 第10巻　福祉用具の使い方，住環境整備．協同医書出版社．

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	地域作業療法学 演習Ⅱ（ Seminar Based Rehabilitation and OtⅡ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	作業療法科教員
学科	作業療法科	授業形態	演習	総時間（単位）	30（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜 ・ 3.4限

【授業の学習内容】

地域生活を送る心身機能に障害を持ちながら地域生活を送る人々は多い。そのような人々が地域生活を継続することができるように支えることを地域リハビリテーションといい、作業療法士に求められる役割の一つである。地域リハビリテーションは外来・通所施設・訪問リハビリなど様々な形で提供される。本講義では、その多くの形の中で、通所施設利用者を対象にしたリハビリテーションを現場での実習や演習を通して学んでいく。地域作業療法学 実習Ⅱでは、レクリエーションの実施に必要な知識・技術を理解し、計画、準備、実施する。

【到達目標】

1.レクリエーションの計画をすることができる
2.実際の現場でレクリエーションの実施ができる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	レクリエーションについて理解し説明することができる。
3回目	レクリエーションについて理解し説明することができる。
4回目	レクリエーションを立案し準備することができる。
5回目	レクリエーションを立案し準備することができる。
6回目	レクリエーションを実施することができる。
7回目	レクリエーションを実施することができる。
8回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。
9回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。
10回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。
11回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。
12回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。
13回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。
14回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	自身でも様々なレクリエーションを探し、計画に活かしてください。 体験、実施の振り返りがとても大切になります。
評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（100%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	グループ学習が主になります。グループワークに積極的に参加してください。

【使用教科書・教材・参考書】

なし

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	臨床実習Ⅱ（Clinical Practice Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	臨床実習指導者
学科	作業療法科	授業形態	実習	総時間（単位）	360（8）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月～金曜 ・ 1～4限

【授業の学習内容】
基本的な方針は学外実習で行います。
別々の病院・施設に行き、臨床の作業療法士の指導のもと技術習得を目的とした実習を行います。
技術：「面接」「観察」「検査・測定」の実践
1名もしくは複数の対象者を通して、「面接」「観察」「検査・測定」技術を習得する。
認知・知識：評価結果にもとづいて、問題点をまとめ解釈できる思考
評価結果は、提示いただいたものを用いて、問題点をまとめ焦点化する（可能であれば治療計画まで）「考え方」を教授する

【到達目標】
病院や施設の作業療法の実際を学び、医療を志す学生に必要な行動を身に付ける。また作業療法評価技術を習得し、
実践課程(初期評価～計画立案)における考え方を深める。

授業計画・内容	
1日目 ～ 180時間 × 施設数	**1）職業人としての態度・適正** 1：常識的態度や責任のある行動を身につける。 1-1 時間や約束を守る。 1-2 その場にふさわしい服装や身なりを整える。 1-3 礼儀正しい行動をとる。 1-4 公私を区別する。 1-5 守秘義務を果たす。 2：対象者および家族と望ましい人間関係を持つ。 2-1 対象者および家族の訴えを聞く。 3：必要に応じて関連職種と連携をとる。 3-1 職員、関係スタッフの役割を説明する。 4：意欲的に取り組む姿勢(探究心・創造性)を持つ。 4-1 疑問点を列挙する。 4-2 必要に応じて質問する。 4-3 自分の意見を述べる。 **2）評価** 5：評価計画を立てる。 5-1 評価内容を想起する。 5-2 評価手段を選択する。 5-3 選択した評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)の実施計画を立てる。 5-4 評価手順と期間について計画を立てる。 6：評価を実施する。 6-1 必要な機器や道具等を事前に準備する。 6-2 適切なオリエンテーションを実施する。 6-3 選択した評価内容(情報収集・面接・観察・検査測定)を実施する。 **3）記録・報告** 7：記録すべき必要な事項を選択し、記録する。 7-1 選択した必要な事項を記録する。 8：報告すべき必要な事項を選択し、報告する。 8-1 報告すべき必要な事項を選択する。 8-2 選択した必要な事項を報告する。 **4）管理・運営** 9：組織の概要を理解する。 9-1 地域における施設の役割について説明する。 9-2 施設における作業療法士の役割について説明する。 9-3 他職種と作業療法士との関係を説明する。 10：作業療法の過程を理解する。 10-1 作業療法に関連する制度について説明する。 10-2 指示、記録、診療報酬請求などについて説明する。 11：管理業務の概要を理解する。 11-1 備品、カルテ、書類など必要な管理義務を説明する。 5）指導者の事例から教授を受ける 12：作業療法計画 12-1 評価結果から全体像 12-2 将来像を予測 12-3 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化 12-4 長期目標および短期目標を設定 12-5 治療・指導・援助を計画

準備学習 時間外学習	臨床は真剣勝負です。限られた時間の中で「評価」ー「治療」の流れを学べるよう目的、目標を明確にしておいてください。		
評価方法	1. レポート（25%） 2. 課題成果（25%） 3. 実地試験（50%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価などを経験します
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		

【使用教科書・教材・参考書】
なし

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	臨床作業療法学 Ⅱ（Seminar to Preclinical Practice Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	磯貝 理栄
学科	作業療法科	授業形態	演習	総時間（単位）	30（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

実習に関わる書類作成
接遇、態度について
評価技法について
評価計画立案、手順について

※実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。また、日本作業療法士協会の福祉用具研修の運営に携わっている。

【到達目標】

本科目は、2年次の後期に行われる臨床実習Ⅱを有意義な学習のするための最終的な準備を行う科目である。作業療法の実践に必要となる知識、技術を整理するとともに、実習で必要となる接遇、記録の仕方、評価法といった基本的技能を確認する。
作業療法士として必要な態度、接遇を理解し、実践できるようになる。評価計画の立案，結果の解釈，治療・介入を考慮した作業療法目標を設定することができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（臨床実習Ⅱの目標等）
2回目	臨床実習の準備をすることができる。（1）
3回目	臨床実習の準備をすることができる。（2）
4回目	臨床実習の準備をすることができる。（3）
5回目	臨床実習の準備をすることができる。（4）
6回目	臨床実習の準備をすることができる。（5）
7回目	臨床実習の準備をすることができる。（6）
8回目	臨床実習の準備をすることができる。（7）
9回目	臨床実習の準備をすることができる。（8）
10回目	実習後報告会の準備をすることができる。
11回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
12回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
13回目	実習後報告会の準備をすることができる。
14回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
15回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。

準備学習時間外学習	実習にて必要となる評価技術や使用する評価用紙をファイリングし準備しましょう。 また、実習後のセミナーにて事例報告できるようにレジュメを作成してください。		
評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（100%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	臨床実習Ⅱを有意義な学びの場にすることを目的とし、接遇、記録、評価、方法等について身につけます。
受講生へのメッセージ	実習に臨むにあたり、必要な接遇を学ぶとともに、作業療法評価の方法、手順、計画立案について理解し、実践できるように知識・技術を整理しましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

なし

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	キャリア教育Ⅰ（Career Counseling Ⅱ）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	後藤 由香
学科	作業療法科	授業形態	講義	総時間（単位）	15（1）	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

職業人として、職業観を身に付けるとともに、必要な知識・技術を高める。
合同企業説明会や就職案内を通して自分の進路を方向づける。

【到達目標】

本科目は、職業人として、職業観を身に付けるとともに、必要な知識・技術を高める。また、合同企業説明会や就職案内を通して自分の進路を方向づける。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを実施することができる。
2回目	マネー講座にて将来の設定をしていくことができる。
3回目	自己分析講座にて自分の特性を活かすことができる。
4回目	実習前マナー講座にて実習で必要なマナーの心得を取得することができる。
5回目	文章力養成講座にて文章力を養う事ができる。
6回目	履歴書・面接対策講座にて履歴書や面接方法について実施することができる。
7回目	合同企業説明会に参加することができる。
8回目	合同企業説明会に参加することができる。
準備学習時間外学習	
評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（100%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

なし